

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141	A-180	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>Real-world effectiveness of pharmacological treatments of alcohol use disorders in a Swedish nation-wide cohort of 125 556 patients</p> <p>スウェーデンの全国 125,556 人の患者コホートにおけるアルコール使用障害薬物療法の実臨床における有効性</p>		
執筆者		
Heikkinen M, Taipale H, Tanskanen A, Mittendorfer-Rutz E, Lähteenvuo M, Tiihonen J.		
掲載誌		
Addiction. 2021 Aug;116(8):1990-1998. doi: 10.1111/add.15384.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、入院、Naltrexone、Acamprosate、Benzodiazepine		33394527
要 旨		
<p>目的：アルコール使用障害（AUD）の薬物療法（disulfiram、acamprosate、naltrexone、nalmefene、benzodiazepine）の実臨床での有効性を調査した。</p> <p>方法：スウェーデンの全国的データベース（National Patient Register、Microdata for analyses of social insurance、Prescribed Drug Register、Causes of Death Register、Longitudinal Integration Database for Health Insurance and Labor Market Studies Register）を個人識別番号により紐付けた。2006年7月～2016年12月にAUDにより初回登録したスウェーデン在住16～64歳全住民（n=125,556、男性62.5%）を組み入れた。主要アウトカムはAUDによる入院（ICD-10：F10）、副次的アウトカムは、あらゆる原因による入院、アルコール関連の身体障害ならびに労働障害（病欠欠勤または障害年金）および死亡であった。多変量調整Coxハザード回帰モデルを用い、AUD薬物療法との関連について、ハザード比（HR）および95%信頼区間（95%CI）を算出した。</p> <p>結果：Naltrexoneはacamprosateとの併用（HR[95%CI] 0.74 [0.61-0.89]）、disulfiramとの併用（0.76 [0.60-0.96]）、単剤（0.89 [0.81-0.97]）のいずれもAUD薬未使用と比べ有意に低リスクを示した。同様の結果は、あらゆる原因による入院リスクにも認められた。Benzodiazepineとacamprosate単剤療法は、AUDによる入院リスク増加と関連した（それぞれ、1.18 [1.14-1.22]、1.10 [1.04-1.17]）。労働障害や死亡については、薬物使用と統計的に有意な関連は認められなかった。</p> <p>結論：Naltrexone単剤およびdisulfiram、acamprosateとの併用は、AUD治療薬未使用と比較して、あらゆるアルコール関連入院リスクを低下させた。Acamprosate単剤療法とbenzodiazepine系薬剤は、アルコール依存症関連の入院リスク上昇と関連した。</p>		